

鷺崎集落における法政大学浅見ゼミの活動（2018-2022）

法政大学法学部国際政治学科浅見ゼミ鷺崎集落支援チーム

浅見靖仁・安藤慶祐・原彬斗

〔活動開始のきっかけ〕

鷺崎集落での活動を開始するきっかけは、新潟県の地域政策課が募集していた2018年度の「大学生の力を活かした集落活性化事業」に応募したことです。浅見ゼミは東南アジアを専門に研究するゼミで、ビザ無しで日本を観光できるようになったインドネシア、タイ、マレーシアからの訪日観光客が急増していたことに目をつけ、雪に強い憧れをもっている東南アジアからの観光客を新潟県の豪雪地帯の集落に誘致することによって地域おこしに協力できるのではないかと考え、この事業に応募しました。

新潟県から割り振られたのは豪雪地帯ではなく、雪があまり降らない佐渡島最北端の鷺崎集落で、雪を目玉にして東南アジアからの観光客を誘致するという当初の目論見は出だしからつまづいてしまいましたが、鷺崎の方々に暖かく迎えていただき、また鷺崎の周辺には大野亀や二つ亀、弾埼灯台といった観光名所があり、鷺崎漁港に水揚げされる新鮮な魚介類や有機農業で作られたおいしい農産物があることを知り、東南アジアからの観光客を誘致できる可能性が十分にあると判断し、そのための活動を開始しました。

〔コロナ禍による東南アジアからの観光客誘致の挫折〕

浅見ゼミは毎年東南アジアで研修旅行を行っており、2018年と2019年の研修旅行では、タイやマレーシアの旅行代理店を訪問し、佐渡を行き先とするツアーを企画する可能性について尋ねたり、現地の大学や日本政府観光局がジャカルタで開催していた日本旅行説明会の会場で現地の人たちを対象にアンケート調査を行ったりしました。この時の調査からははじめて日本を訪れる東南アジアからの観光客に佐渡島を訪問してもらうことはむづかしいものの、東南アジアからの訪日客はリピーターとなる人の割合が高く、2回目、3回目の日本旅行の際には佐渡島を訪問先として選択してもらえる可能性は十分にあるという感触を得ることができました。

しかし新型コロナウイルスによって、東南アジアからの観光客を誘致することが難しくなり、当初の計画は継続できなくなってしまいました。それでもゼミ生の多くが鷺崎との関わりを継続したいと強く希望し、また集落の方々からも訪問を続けてほしいと仰っていただいたので、当初の計画を大きく変更して活動を継続することになりました。



〔活動の軌道修正〕

活動内容の変更にあたり、ゼミで何回か話し合いをしました。その中で、鷺崎の活性化のためには1回しか訪問しない「観光客」を増やすことよりも、何回も繰り返して訪問したり、数週間、数ヶ月、場合によっては数年間滞在したりする「関係人口」の増加が必要だという意見が出されました。また私たち自身がそのような「関係人口」になりたいと感じるようになったのはなぜかについても話し合いました。当初は鷺崎あるいはその周辺の地域にある観光資源を知ることが目的に、カンゾウ祭りや村祭り、寒ブリ祭りに参加したり、農業体験や漁業体験をしたりしていましたが、そうした活動をしているうちに鷺崎集落の最大の観光資源は、山でも海でも魚でも農作物でもなく、人であると強く感じるようになったという意見や、鷺崎の人たちは、私たちにとって単なる観光資源ではなく、親戚のおじさん、おばさんのような存在であり、鷺崎は私たちにとって単なる物見遊山の対象ではなく、第2の故郷となっているという意見も出されました。

2020年度は新型コロナウイルスのため、鷺崎を訪問することができませんでしたが、2021年に活動を再開するにあたって、活動の重点を見直し、鷺崎にある内海府小中学校が始めた離島留学プロジェクトや村祭り、鬼太鼓、亀翔会の踊りなどの伝統芸能の存続、高齢化により人手不足になりつつある農作業支援などに力を入れることにしました。

鷺崎集落の存続のためには、現在生徒数が8人（中学生4人、小学生4人）となっている内海府小中学校の存続が当面の最重要課題であり、そのためには2年前から内海府小中学校と鷺崎集落が協力して力を入れるようになった「離島留学」が鍵となります。これまでに2家族の「離島留学」が実現していますが、今後さらに「離島留学」が盛んになるように支援していきたいと考えています。具体的には運動会に参加したり、総合学習の時間や課外活動を一緒に行ったり、キャリア教育の一環として私たちの高校時代や大学での話、進路の決め方などについて小中学生に話をしたりしています。

離島留学先としての鷺崎の魅力を高めるためには鷺崎集落の活性化も必要です。そのためのイベントの企画や実行のお手伝いもしていきたいと考え、2021年度と2022年度には集落活性化のための提言書を作成して、集落の方々の前で発表も行いました。

